

東北大学大学院情報科学研究科

(1) シンポジウム開催支援経費実績報告書	
タイトル	第2回音空間・HRTF 徹底討論ワークショップ(The 2 nd workshop on acoustical space and Head Related Transfer Function)
(2) 主催者	文部科学省・知的クラスター創生事業サイバーフォレスト計画・インテリジェントユニバーサルコミュニケーションプロジェクト
期 日	平成17年7月19日(火)~20日(水)
会 場	宮城蔵王ロイヤルホテル
出席者数(講師・パネリスト等を除く)	58名
講師・パネリスト等の氏名・勤務先等	鈴木陽一(東北大) 森本政之(神戸大) 宇佐川毅(熊本大) 飯田一博(松下電器) 福留公利(九州大) 穂刈治英(長岡技大) 平原達也(ATR人間情報科学研究所) 岩谷幸雄(東北大)
(3) 目的	音空間・頭部伝達関数に関する研究は,人間の空間知覚情報処理過程および高臨場感通信への大きな寄与が期待できる.本シンポジウムでは,音響工学やバーチャルリアリティに関する専門家を一同に集め,音響空間の知覚・制御および頭部音響伝達関数(HRTF)に対する様々な意見交換,研究討論を行うことを目的とする.
(4) 内容	二日間に渡り,2名のキーノート講演,ラウンドテーブル(3名講演),2つのセッション(発表:7件),ポスターセッション(33件)など,当初の予定をはるかに超える発表と参加者を得ることができ,音響空間の知覚・制御および頭部伝達関数に関連する研究に関して深い研究討論を行った.
(5) 情報科学研究科にとっての意義・貢献度	2回目を迎えた本シンポジウムでは,日本全国の大学・企業から,この分野に携わる研究者が一堂に会し,長時間にわたって深い討論を行うことができた.前回は本研究科からの支援を受け開催することができたが,参加者からは次回開催への期待も多く寄せられた.全国の基幹大学たる東北大学における情報科学研究科が,本シンポジウムを継続して支援することは,音情報科学の発展に大きく寄与するものであり極めて意義深いと言える.

注(1)「シンポジウム開催支援経費」「学際的研究プロジェクト支援経費」より、該当する項目を記載してください。

(2) 当学術企画実施の代表者もしくは責任者及び協力者名を全員記載してください。

(3) 当学術企画を実施した目的を簡潔に記載してください。

(4) 実施された当学術企画の内容を簡潔に記載してください。

(5) 大学院情報科学研究科に対する当学術企画の意義や貢献度を簡潔に記載してください。